



◀ 後列右から境監督と吉田和人・中井英初・古部弘貴選手。前列右から田代峻介・塚田祥汰・山中賢人選手

県選抜メンバーとして中央中の6人も健闘!!

ハンドボール中学全国大会でベスト8入り

12月24日から名古屋市内で行われ『第18回 JOCジュニアオリンピックカップ2009ハンドボール大会』男子部門に、中央中の3年生6人が佐賀県選抜チームの一員として出場し、熱戦を繰り広げてきました。

オリンピックや世界選手権大会などで日本代表選手として活躍する可能性のあるジュニア選手の発掘と育成を行う大会で、全国9ブロックから24チームが出場。佐賀県選抜チームは、神埼中8人と清和中2人を含め、3校・16人の選手で構成され、初戦で兵庫県選抜、2戦で愛知県選抜を破り、順調に決勝トーナメントへ進出しました。その1回戦で福井県選抜に敗れ、準決勝進出こそ逃したものの、初参戦でベスト8入りし、果敢な健闘ぶりを発揮してきました。

山中賢人主将は、「ハイレベルな大会で精一杯プレーができて楽しかった。後輩には、さらに上を目指してほしい」と。選抜チームを率いた中央中の境吉彦監督は「高校進学後も伸びてほしい選手達なので、大きな舞台を経験できたことは財産。よく戦ってくれたし、支えや応援もありがたい力だった」と選手を称え、保護者やスタッフにも感謝されていました。

巨大絵馬の孔子様が受験生の想いを応援

3月中旬までJR多久駅・小城駅・唐津駅に設置

本誌1月号特集で紹介していた『巨大絵馬』の完成に伴う関係者への披露式が12月23日、多久聖廟で行われました。

式では、東脊振中学校教頭で画家の牛丸和人さん（多久町）が製作者を代表し、「限られた期間に完成できたのは、2人の教え子のおかげで、聖廟に関われるご縁に恥ずかしくない作品にしたいと思いを込めました。多くの方の目に触れ、郷土の宝にもっと興味を持ってもらえるとう嬉しい」と伝えると、同協会の西山智恵子副会長が、「立派な出来栄えと凜とした孔子様に感動しました」と感激。労をねぎらう言葉やお礼を述べました。3体の絵馬は廟内に納められ孔子様に報告後、JR多久駅と小城駅に、28日に唐津駅に1体ずつ設置されました。

これまで300枚以上の願い紙が投函されており、「投函記念にどうぞ!」と置いている『論語を記した多久聖廟の菜』の人気も高く、お礼にコインが投入されている日もありました。記念写真をしたり、手を合わせたり、絵馬の設置場所はまるでパワースポットの様です。



▲合格祈願に初めて聖廟を訪れ、3体の絵馬や孔子様との偶然の出会いに感動し、願い紙を投函する受験生

12/27

『幡船の里』 地域に根付いた活動を 続け15周年



多久市ふるさと情報館『幡船の里』（船津忠伸会長）は、平成6年創業以来、地元西多久町の会員35人が生産した新鮮な農産物・加工品の直売所として15周年を迎えました。27日は紅白もちやぜんざい『幡船汁』のふるまいで、日頃のご愛顧に感謝。正月前の買い物客で終日賑わいました。また25日には、市内福祉施設4か所に訪問し、穫れたての農産物をプレゼント。施設の入所者に喜ばれていました。

12/25

中央公民館と各地区 公民館に車イスが寄贈



多久市社会福祉協議会（兼行進事務局長）は、車イス6台を多久市中央公民館へ寄贈しました。これは、共同募金の地域歳末配分事業で贈られたものです。中央公民館と各地区館へ1台ずつ渡され、体の不自由な方やお年寄りの方が使えるようになりました。